

大問	1	2	3	4	5	6
解 答	(1) 活性化につなげる (2) 回収品の種類を増やすこと。 (3) 3 (4) (例) 再利用で資源の節約を	(1) ア すんか ウ きんこう オ こと カ 登録 コ 縦断 ク 済 ケ キ 破損 キ 筋道 エ なが イ きょうこく	(1) ア 謂 晏 子曰 イ 1 ウ (例) 常に行動し、常に進む (十字) (2) ア とびちがいたる イ 2	(1) (例) おっしゃる (2) 一つの間にか身にまよってしまった (3) (例) 次に何を言えいいのかわからないのに、朔のもとに走った (二十七字) (4) 3 (5) (例) 正反対の気持ちでも裏と表でつながっているからどっちも持っていていい (三十二字)	(1) 2 (2) 3 (3) うすいプラスチック板の上にまかれた砂が作る模様 (4) 時代によってことなる (5) A (例) ブラックホールが存在すると仮定する B (例) 目に見えず可視化できないが存在する (十七字) (三十二字)	(省略)
配点	4 4 4 4	2 (各1)5 (各1)5	2 2 4 4 2	6 4 4 4 4	4 4 4 4 2 4	100 10
備 考	(1) (2) かな書きのもの、誤字、あて字があるものも認める。 (4) (1) 同じ内容であればよい。 (2) 上記の例以外でも、条件を満たし、適切な内容であればよい。	(1) (1) ウ 上記の例以外でも、条件を満たし、同じ内容であればよい。	(1) (3) (5) 上記の例以外でも、条件を満たし、同じ内容であればよい。 (5) 上記の例以外でも、条件を満たし、同じ内容であればよい。	(6) ※ 次の二つの条件を満たしているものを正答とする。 ① 第一段落に、やりとりをもとに、日本語の会話について気づいたことを書いている。 ② 第二段落に、①をふまえて自分の意見を書いている。 ※ 次の点にあてはまる場合は点数を減ずる。 ・ 字数が百五十字未満、または二百字を超えた場合は1点を減ずる。 ・ 二段落構成でない場合は1点を減ずる。	・ 表現に関する誤り(文法、文体、語句の意味、用法、主述の照応等)が三か所あるものは1点、四か所以上あるものは2点を減ずる。 ・ 表記に関する誤り(文字、かなづかい、句読点、符号の使用方等)について、右の基準を適用する。	